

競技注意事項

1, 競技規則について

本大会は、2025年公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項及び競技注意事項、申し合わせ事項によって実施する。

2, 練習について

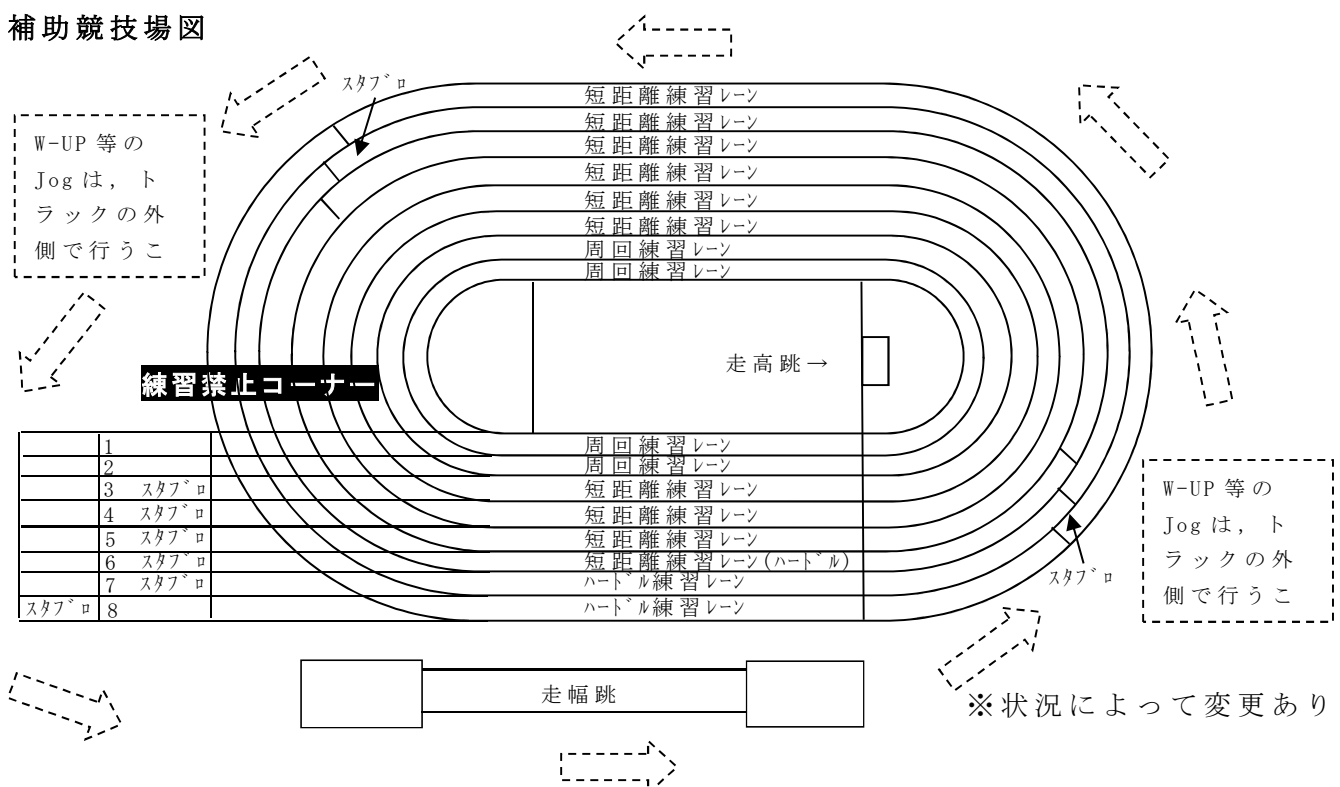
練習は係員の指示により実施する。

- (1) 補助競技場での練習は、その日に競技がある選手のみとする。
朝の本トラックでの練習は、不可とする。
- (2) 投てき競技の練習は投てき練習場で決められた練習時間に、監督・コーチ付き添いのもと安全に留意して行うこと。
 - ① 競技日の練習時間⇒招集完了1時間前～招集完了時刻まで
 - ② 1日目の女子砲丸選手の練習時間⇒14:00～15:30
 - ③ 2日目の女子四種砲丸選手の練習時間⇒11:00～12:30
- (3) 室内走路での練習は、Jog, ドリル, ストレッチのみ可とする。
棒高跳の競技前のW-UPとして1日目7:15～9:00まで開放する。
荒天時については別途指示する。
競技場側室内走路での、走幅跳びの競技中における調整練習は認める。
- (4) 補助競技場における「レーン」の使用区分及び注意事項について
 - ア) 周回1・2レーンは中・長距離関係。
 - イ) ホームストレート3・4・5・6レーンは短距離関係。
 - ウ) ホームストレート7・8レーンはハードル関係。(時間帯により6レーンも)
 - エ) 1・2コーナーからバックストレート, 及び3コーナーにかけての3・4・5・6・7・8レーンは短距離関係(バトンパスを含む)

< 注意 >

- 1) JOG, 体操等はレーン外及びフィールド内とする。
- 2) レーン内及び芝生でのミニハードル等用具の使用を禁止する。
- 3) レーンの逆走は禁止する。
- 4) レーン内の歩行はできるだけさけ、立ち止まらない。
- 5) レーンを横断する際は、左右を確認し駆け足を原則とする。
- 6) 第4コーナーからホームストレートへの交点付近は、練習禁止。
- 7) スタプロ, ハードルの持込は禁止とする。補助競技場の練習用を使用すること。

補助競技場図



3. 招集及び入退場について

招集所は第1ゲート外側（100mスタート付近）に設置する。

- (1) 招集時刻は競技開始時刻を基準として下記の通りとする。
トラック競技は20分前を招集完了とする。ただし、組数の多い予選種目は時間差を設けて招集を行う。詳しくはプログラムの競技日程で確認すること。
フィールド競技は30分前を招集完了とする。ただし、棒高跳びは45分前に現地集合とする。
リレーのオーダー用紙は、招集所で配布する。各ラウンドの第1組目の招集完了時刻60分前までに競技者係に提出すること。
混成競技は四種目全て招集所で招集を行う。
- (2) 招集手順
 - ① 招集開始時刻から完了時刻までの間に招集所で、競技役員にアスリートビブス、競技用シューズ、衣類及び競技場内への持ち込み物品等の確認を受ける。携帯電話や通信機器（通信機能のあるスマートウォッチ等は通信機能を切断すること）、および音楽再生機器等は持ち込めない。(TR6.3.2) 代理人による最終点呼は認めない。(800m以上のトラック種目は、腰No標識を受け取る。)
 - ② 最終点呼後、競技役員の誘導でスタート地点（フィールド競技はピット）に移動する。
- (3) 招集の注意事項
 - ① 出場すべき競技種目を欠場する場合は、招集完了時刻前までに招集所の競技者係に欠場届けを提出する。
 - ② 招集時刻に遅れたり競技者係からのチェックを受けなかった場合、競技者は欠場したものととして処理される。
- (4) 入退場は係員の指示に従う。競技が終了した競技者は、バックスタンド側ダグアウトを通り、全て第4ゲートより退場する。

4. アスリートビブスについて

各競技者は、プログラムに記載された番号と同じアスリートビブス（20cm×16cm）を、ユニフォームの胸部と背部につける。男子は黒字、女子は赤字とする。

- (1) 跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部どちらか片方でもよい。
- (2) 800m以上の中・長距離の競技に出場する競技者は腰ナンバー標識をパンツの右側後方につける。腰ナンバー標識は招集所で配布する。
- (3) 3000mに出場する選手は、招集完了時刻までに招集所でプログラム記載のアスリートビブスを提示し、特別アスリートビブスを受け取りユニフォームの胸部につける。

5. 競技運営について

本大会は下記の主な留意事項に基づいて運営する。

- (1) 競技運営上、競技日程及びピットを変更することがある。
100m・ハードル競技については、風向きを考慮してバックストレート走を行う場合がある。招集完了時刻に最終判断を行う。
また、地震・雷雨等の自然災害やJアラート発動の際は、競技を中断し安全が確認された後に再開する。日程の関係で、中断後に再開が不可能な場合は、「宮城県中学校体育連盟 緊急対応要項」に基づき競技方法の変更や以降の競技を中止する場合がある。
- (2) トラック及びフィールド内にはその競技を行う競技者並びに役員（審判および該等補助員）以外は立ち入ることはできない。フィールド競技はコーチングエリアを設ける。競技者とコーチがコミュニケーションをとる場合のみとし、エリア内に常駐しないこと。
- (3) 競技者がレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の電子機器を競技場内で使用は許されない。
- (4) トラック競技において、次のラウンドの進出者を決める場合、最後の1枠に同記録者がある場合は、写真判定主任が同記録者の1/1000秒の実時間を判定して進出者を決める。その結果、記録差がない場合はレーンに余裕があれば同記録者が次ラ

ウンドへ進出できるようにする。それが不可能な場合は、当該競技者本人または代理人の抽選とする。(TR21.5)

- (5) セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走り、他の競技者の妨害をしない。
- (6) 男子3000mはグループスタートとする。また、天候により給水を行う。
- (7) リレー競技におけるチームの編成は次の通りである。(TR24.10,TR24.11)
- ① リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。（ただし、リレー2種目を兼ねることはできない。また、チーム間にまたがるメンバー変更もできない。）
- ② どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。
- ③ 最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内限り他の競技者と交代することができる。
- ④ 交代とは一度出場した競技者が他の競技者と代わることであり、最初のラウンドにおいてリレーに申し込んでいない競技者が出場する場合は交代とはみなさない。
- (8) リレー競技においてはチームの出場者は、同一系のユニフォームを着用する。（ランパン、スパッツ、メーカーロゴ等の違いは、同色であれば許容範囲とする。）
- (9) 4×100mR競技における第2、第3、第4走者は自チームで用意する最大50mm×400mmの粘着テープをマーカーとして1ヶ所使用することができる。なお、競技終了後、使用したマーカーは責任をもって取り除くこと。(TR24.4)
- (10) フィールド競技における競技場内での練習は審判員の指示により行う。
- (11) 走幅跳、砲丸投においては、すべての競技者に3回の試技が与えられる。試技3回終了時点の記録上位8名には、さらに3回の試技が与えられる。
- (12) 走幅跳、棒高跳に出場する競技者は助走路の外側に主催者の準備したマーカーを2個まで使用することができる。
- (13) 走高跳に出場する競技者は、各自で用意したマーカーを2か所までおくことができる。（曲走路内に限る。）
- (14) 棒高跳びに出場する競技者は支柱を自分の希望する位置に移動してもよい。
- (15) 混成競技では1種目でもスタートしなかったか、また、1回も試技をしなかったときは、それ以降の種目に参加することは許されず、競技を欠場したものとみなされる。
- (16) 混成競技を除き、不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。混成競技は、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートをした競技者は、すべて失格となる。
- ※スタート時の不適切行為に関しては審判長によって警告「イエローカード」を与えられることがある。本大会では2枚の「イエローカード」の提示を受けた競技者には「レッドカード」が提示され、当該種目のみを失格とする。ただし、競技会からは除外しない。(TR16.7,TR16.8,TR39.8.3)
- (17) 競技結果（記録）は、Webサイトから確認すること。なお、次ラウンドへの進出者一覧は、招集所付近に掲示する。

6. 走高跳、棒高跳決勝におけるバーの上げ方について

種 目	性別	競 技	練 習
走高跳	男	1m50 - 55 - 60 - 65 - 70 - 75 - 80 - 85 (88-91-94-97・・・) 以後3cmきざみ	1m45 1m60
	女	1m30 - 35 - 40 - 45 - 50 - 55 - 60 (63-66-69-72・・・) 以後3cmきざみ	1m25 1m40
四種競技 走高跳	男	1m45 - 50 - 55 - 60 以後3cmきざみ (63-66-69-72・・・)	1m40 1m55
	女	1m20 - 25 - 30 - 35 以後3cmきざみ (38-41-44-47・・・)	1m15 1m30

棒高跳	男	2m50 - 65 - 80 (90-3m00-10-20・・・)	以後 10 cm きざみ	2m40 3m30
-----	---	--------------------------------------	--------------	--------------

- (1) 最後の1人になり優勝者が決まるまでは、上記の上げ方とする。ただし、天候その他の関係で変更することがある。
- (2) 第1位を決めるためのバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cm刻みとする。
- (3) 走高跳、棒高跳の練習の高さは、希望により2段階で行う。

7. 競技用シューズの規定について

- (1) WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に招集所にてソールの厚さチェックは不要となる。ただし、審判や審判長の権限により求められた場合はチェックする。TR5.13.3（国内TR5.2）承認リストにない場合は事前申請が必要であるが、中学生の大会では事前申請は不要。
- (2) 本競技場におけるスパイクピンの数は11本以内とする。また、スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳については12mm以内とし先端の直径は4mm以内でなければならない。(TR5.3,TR5.4,TR5.5,TR5.6)
- (3) 砲丸投に関しては、シューズの確認を行わない。

8. 抗議について (TR8)

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は、その種目の正式発表後30分以内に監督が直接審判長に口頭で申し出なければならない。
- (2) 次のラウンドが行われる競技種目ではその結果が正式に通告されてから15分以内に申し出なければならない。
- (3) 裁定に不服の場合は委託金（1万円）を添え、総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。なお、ジュリーの裁定が最終決定となる。

9. 東北大会・全国大会出場について

本大会4位まで入賞した選手は、東北大会出場権を得る。大会期間中に競技場側室内走路で出場手続きを行うこと。辞退者が出た場合は繰り上げて出場権を与える。4位に同順位がいた場合は、東北大会出場決定戦を行う。（トラックは1/1000秒まで判定）
全国大会出場選手（参加標準記録を突破した選手）は、申込方法の説明を聞き、その手続きを進める。（正式な申込手続きは全国大会出場者練習会にてお願いします。）

10. 表彰および学校対抗得点について

- (1) 各種目と学校対抗総合の8位まで賞状を授与する。決勝終了後、直ちに入賞者は表彰者控場所（正面ロビー中央中央）に移動すること。（競技用ユニフォーム着用は不可。ジャージ等を着用すること。）
※該当選手が揃い次第、3階コンコースWゲート付近で表彰を行います。
- (2) 学校対抗得点（男女別）は、1位8点、2位7点・・・8位1点とする。
※ただし、地域クラブ等は対象としない。

11. その他

- (1) 救護本部は、スタジアム1階の医務室に設置する。応急処置は行いが、以後の責任は負わない。
- (2) 商標について
商標などの規定については、「競技会における広告及び展示物に関する規定」を遵守すること。これに違反した場合は、主催者で処理する。
※競技者は、招集を受ける前にテープなどで対応しておく。また、競技役員に指摘された場合はその指示に従う。
- (3) 応援・観戦について
 - ① 競技進行の妨げにならないよう注意すること。特にフィールド競技の進行に配慮すること。また、バックストレート走を実施する場合、1500mのスタート付近のバックスタンドの一部を進入禁止とする。
 - ② 集団応援はバックスタンド中段より上の集団応援可能エリアのみとするが、棒高

跳の競技中およびバックストレートでの競技中の集団応援は不可とする。また、通路での応援・観戦は禁止とする。

(4) 応援横幕・のぼり旗の設置について

①メインスタンドへの設置は禁止する。

②バックスタンド・サイドスタンドに設置する場合、応援横幕は座席の中段より上に設置する。のぼり旗は上段の手すりのみの設置とする。ただし、車いす用客席前や通路をさえぎる状態での設置はしないこと。毎日、撤収すること。

③応援横幕・のぼり旗の固定はロープ類を使用すること。粘着テープの使用は禁止する。

④個人名の応援横幕・のぼり旗等は禁止とする。

(5) 迷惑撮影防止対策について

迷惑撮影防止対策についてアスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為であり、本競技会において、以下の項目を設けることとする。

・不審な行動を目撃した場合には、速やかに競技役員に知らせる。

・撮影を行う場合は、各所属から発行された「撮影許可証」を首から下げることに。

・撮影は指定された部分のみとする。（撮影区域については、別紙参照）

・一眼レフカメラおよび、望遠レンズが使用できるカメラの使用を禁止する。

・ビデオカメラは、メインおよびサイドスタンドの通路より上部のみ可とする。また、バックスタンドは撮影不可とする。

・スマートフォン・タブレット端末については、制限を設けないが最前列での撮影は禁止する。

・撮影禁止エリアでは、全ての撮影機器の使用を禁止とする。

・主催者及び競技者の承諾を得ずに、撮影した画像・動画をWeb上(SNS等含む)にアップロードしたりする事は控えること。放映権及び肖像権の侵害となる場合がある。

【例外事項】

・主催者の許可を受けて専用ビブスを着用した者は、競技場内での撮影許可領域での撮影を許可する。

・監督・コーチによるコーチングエリアからの撮影。

(6) 室内走路及びグリーンエリアに敷物を利用し、場所を確保して待機場所として利用することを禁止する。

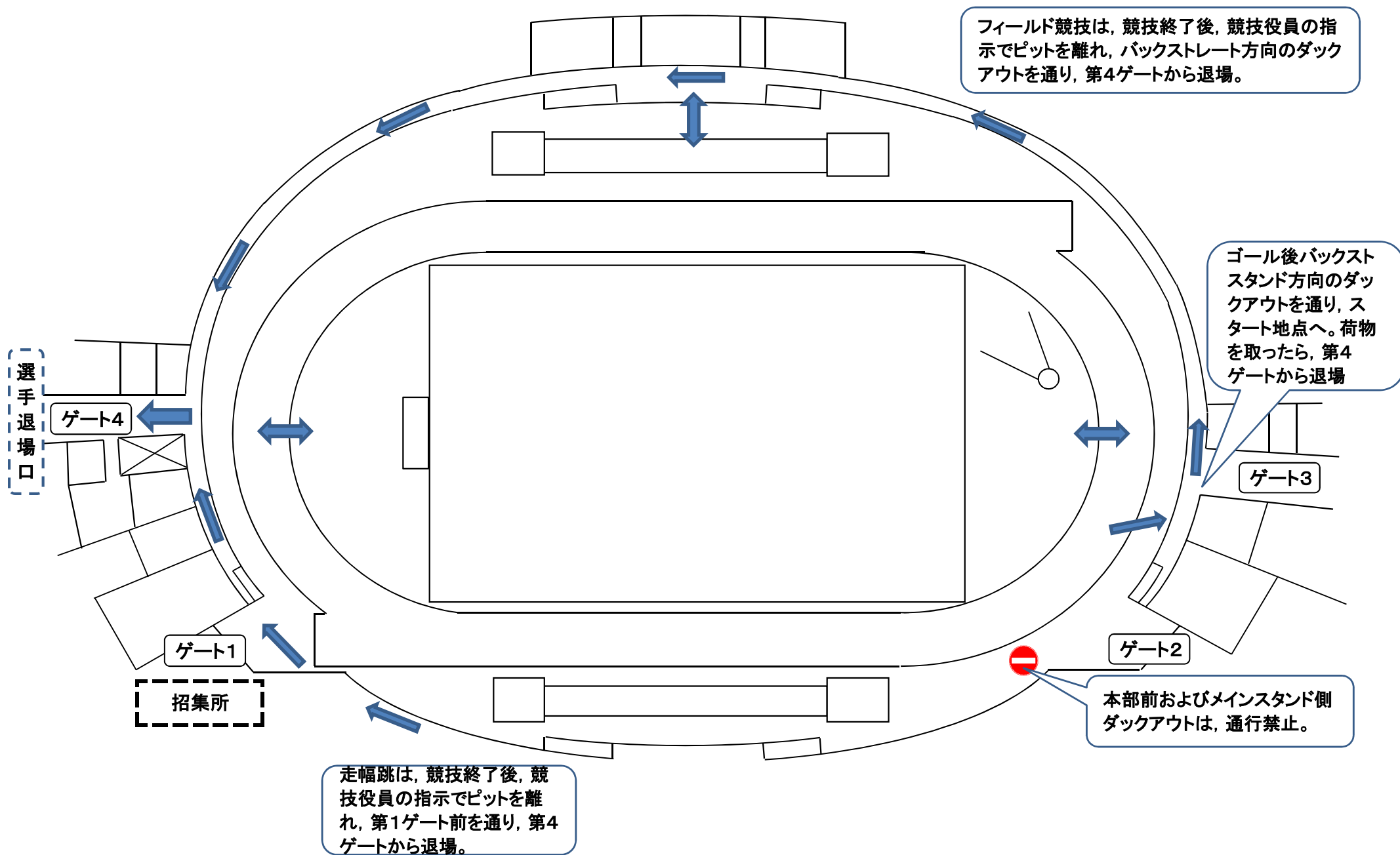
(7) 各校の待機場所として3階コンコースを利用し、シートを固定したり壁に物を貼ったりする時は、粘着力の弱いテープ等で貼り付ける（ガムテープの使用は厳禁とする）譲り合って使用し、荷物は毎日撤去すること。

(8) ゴミは原則として各校で持ち帰ること。

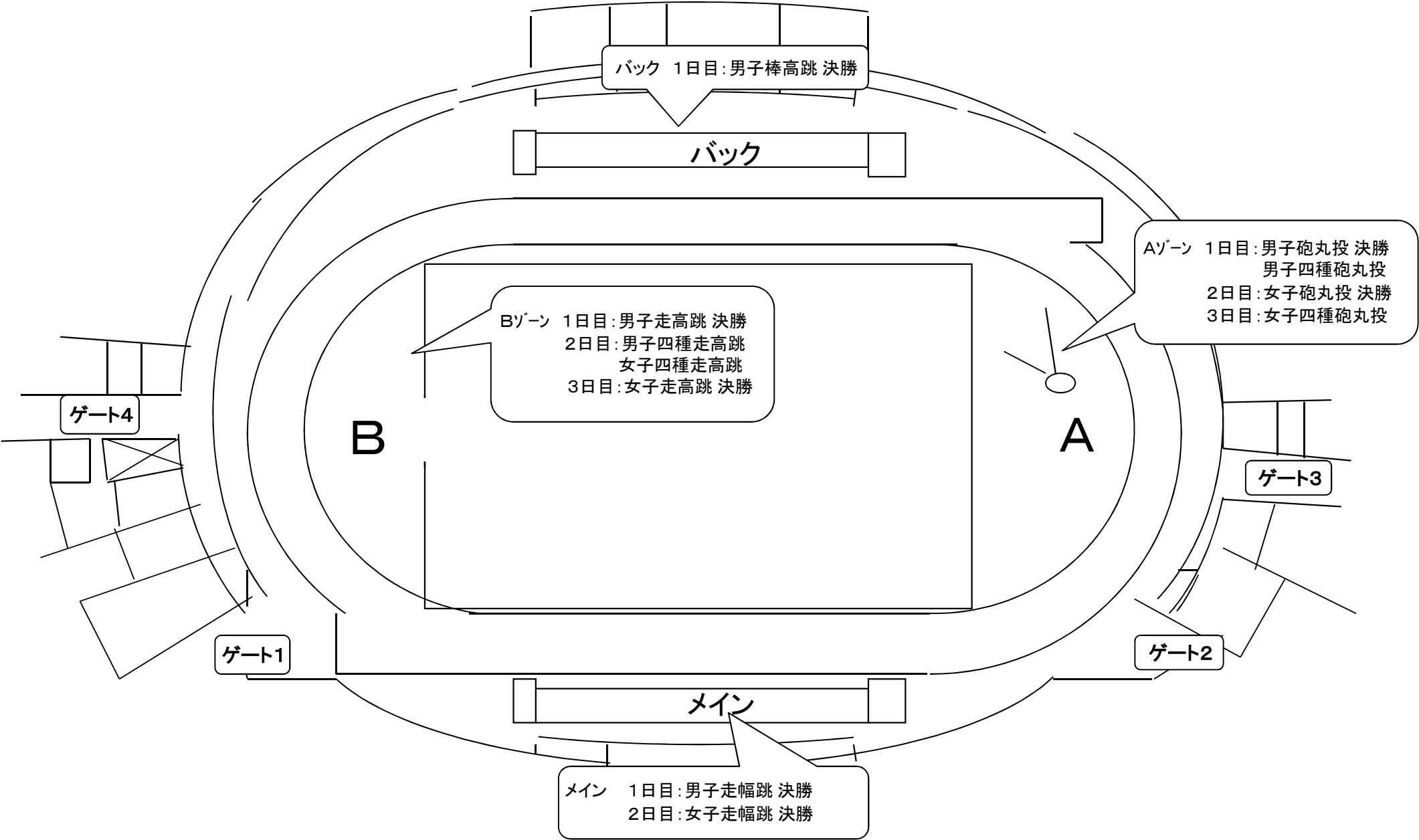
(9) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので各自持ち物や貴重品の管理に十分注意する。

(10) 本部は競技運営室6に設置する。不明な点は、大会本部に問い合わせること。

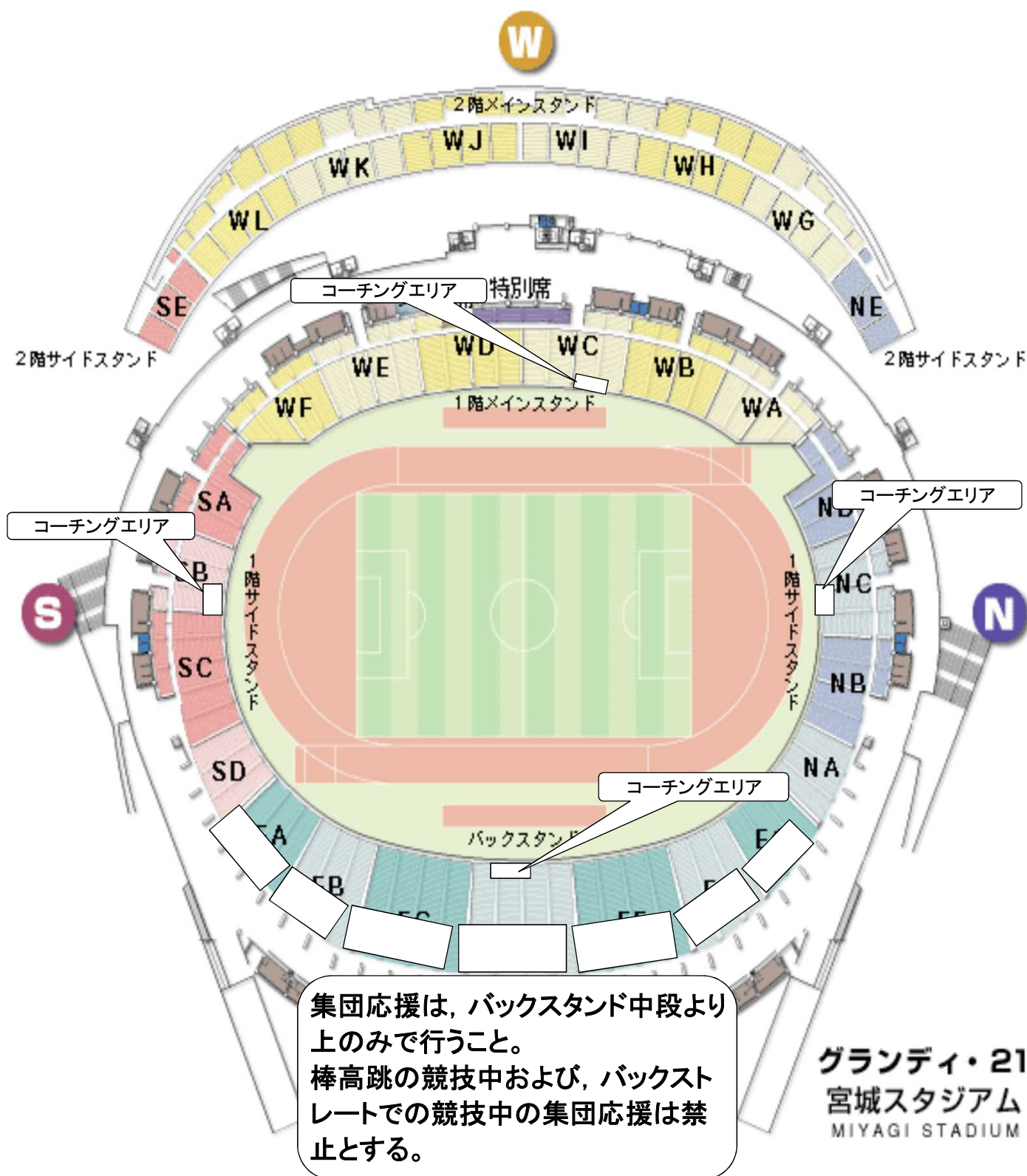
選手導線



フィールド競技会場図



コーチングエリアおよび集団応援について



《コーチングエリアについて》

フィールド競技はコーチングエリアを設ける。(ダグアウトにも設置するが、審判をしている教員専用とする) 競技者とコミュニケーションをとる場合のみとするので、エリア内には常駐しないこと。

《集団応援について》

集団応援は、バックスタンド中段より上のエリアのみとする。

棒高跳の競技中および、バックストレートでの競技中の集団応援は禁止とする。